

2019年度スポーツ庁委託事業「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
北海道地域ワークショップ 報告書

日時	2020（令和2）年2月10日（月）10：00－16：00
会場	北海道総合体育センターメインアリーナ他
参加者	121名（北海道教育庁5名、教職員104名、教育局指導主事10名、日本体育大学2名）
プログラム	<p>10：00 開会挨拶 北海道教育庁学校教育局健康・体育課 主幹 山城宏一</p> <p>10：20 パラリンピックスポーツ体験（ボッチャ、ブラインドサッカー） 北海道ボッチャ協会 理事長 樋口幸治 一般社団法人A－b a n k北海道 芳賀博信</p> <p>12：00 休憩</p> <p>13：00 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業について 日本体育大学 特別研究員 乳井勇二 北海道の取組について 北海道教育庁学校教育局健康・体育課 主査 内海久</p> <p>13：50 実践発表 全体発表：八雲町立落部小学校、北海道奥尻高等学校、北海道岩見沢高等養護学校 グループ別発表： 1：網走市立東小学校、幕張町立幕別小学校、士別市立士別中学校 2：北海道苫前商業高等学校、登別市立幌別中学校、名寄市立名寄小学校 3：釧路市立朝陽小学校、利尻富士町立鴛泊中学校、北海道恵庭南高等学校 4：平取町立平取小学校、島牧村立島牧小学校、北海道中標津高等学校</p> <p>16：00 閉会</p>
内容	<p>開会にあたり、北海道教育庁学校教育局健康・体育課主幹より、東京オリンピックにおけるマラソンおよび競歩の実施が急遽決定し、是非北海道全体で大会を盛り上げ、多くの子どもたちにオリンピックの素晴らしさを知る機会を作っていただきたいと挨拶があった。</p> <p>昨年度同様、前半はパラスポーツ体験ということで、今年度はボッチャとブラインドサッカーを実施した。徐々に広まりつつあるパラスポーツをさらに広げていくためには学校現場での実施が必要であり、今回体験したことを学校に戻ってから是非行ってほしいと説明がなされた。</p> <p>午後からは場所を研修室に移し、事業説明および推進校の実践発表を行った。本学より、事業概要説明および他地域での実践事例、北海道教育庁より、北海道の特色を活かした取組方法について説明を行った。実践発表では、全体発表として3校から発表があり、その後、3つのブースに分かれてグループ別に推進校の実践発表を行った。</p> <p>閉会にあたり、北海道教育庁内海主査から東京大会本番を目の前にしてオリンピック・パラリンピック教育の広がりを望んでいるが、北海道では2030年の冬季五輪の立候補を表明しており、先生方の協力で10年後にもオリンピック・パラリンピック教育が継続されていることを望んでいると挨拶があった。</p>



パラスポーツ体験



事業説明会場



実践発表の様子